

地域コミュニティ 救援をアジアで展開 レンドリース・グループ

豪州・シドニーの本社を拠点に世界中で不動産、建設事業を手掛けるレンドリース・グループは、新型コロナウイルス感染症に対する地域コミュニティでの救援活動を支援する取り組みをアジアで展開している。

日本では、東京都内に拠点を置く認定NPO法人ファミリーハウスとセカンドハーベスト・ジャパンに対し、新型コロナウイルス感染症防止支援

物資パッケージ（手指用除菌剤、マスク、使い捨て手袋やエプロンなどのセット）の購入、配布に必要な準備金を支援。

ファミリーハウスが提供する、遠方の自宅を離れて都内の専門病院で治療を受ける子どもとその家族のための宿泊施設で使用する清掃機器の購入費として、約100万円を寄付する。

また、両法人に対し500枚ずつマスクを寄贈した。

シンガポールではパヤレバー・クオーターの開発を通じて強いつながりを構築した地元団体に手指用消毒剤などを

寄贈した。このほか、中国、マレーシアでも地域コミュニティの支援活動を実施している。

レンドリース・アジアのトニー・ロンバードCEOは、「レンドリースは、地域社会に暮らす方々の安全、ウェルビーイングを重視し、お互いに思いやる文化が大事だと考えている。このような困難な時代を通じて、社会のレジリエンスを高め、さらなる経済発展のため、コミュニティパートナーと一層団結することに取り組んでいる」とコメントしている。

